平成 23 年 10 月 19 日

角山　智

資産運用レポート：現実的な資産運用

１．はじめに

下のチャートは、１９８４から１９８９年にかけての日経平均株価です。今では考えられないような右肩上がりを描いています。

経済のパイが拡大して、資産価格の上昇が続いた、古き良き時代における投資の常識は次のとおりでした。

●資産として株を持つ
●下げれば買い
●持株会に代表される積立投資（ドル・コスト平均法）が資産形成の近道

現に、私の新入社員時代（１９８８年入社）には「持株会の換金額が退職金より多かった」というハッピーリタイアが当たり前だったのです。

しかし、デフレ時代の今日では、この常識が仇となってしまいます。

「そのうち、株価は回復する」と持ち続け、塩漬けにしてしまった方もいらっしゃるのではないでしょうか。

今回の資産運用レポートでは、現実的な資産運用を模索してみます。

★日経平均　株価チャート（１９８４～１９８９年）

きれいな右肩上がりを描いています。高値をつかんでも、１年我慢できれば、平均株価ベースでは買値を回復していました。「こんな時代に投資をしたかった」と思わせるチャートです。